

JSCA 北海道支部 「構造設計交流会 2016」 報告

JSCA 北海道支部 事業委員会 嘉村武浩

2016年10月21日(金)に第6回となる構造設計交流会が開催されました。

構造設計交流会は例年、土日に北海道大学の Mutsumi Hall にて開催されていましたが、今年は金曜日にさっぽろテレビ塔を会場として開催されました。下記に示す四部構成のプログラムで行われ、学生16名を含む合計69名の参加者による大変盛況な会となりました。

<プログラム>

開会挨拶 : JSCA 北海道支部事業委員長 今治宣

第一部 : 作品発表会 (15:00~16:00) (司会: 島田・宮本)

<発表作品>

1. 重ね透かし格子梁を用いた手作り感あふれる構造デザイン

ーノースファームストック増築店舗ー

山脇克彦氏 (山脇克彦建築構造設計)

2. ホテル跡地に建つキャンチレバー構造を有したガラスのオフィス

ーリンナイ北海道支店ー

藤嶋健太氏 (清水建設(株)北海道支店)

3. 都市部における高度先進医療空間を創る ー斗南病院ー

草刈崇圭氏 (株)大建設計札幌事務所)

4. トンネル工法を用いた仮受杭を省いた免震レトロフィット

小谷卓司氏 (株)北海道日建設計)

第二部 : ベテラン設計者から若手設計者へのメッセージ (16:00~17:00) (司会: 榮前田)

<発表者>

1. 富永利身氏 (株)札幌構造設計事務所)

2. 二瓶誠一氏 (株)サムシステム)

3. 江頭恵一氏 (株)大建設計札幌事務所)

第三部 : 第27回JSCA賞 受賞記念講演 (17:00~18:00) (司会: 嘉村)

<発表者>

村上博昭氏 (株)日建設計)

閉会挨拶 : JSCA 北海道支部長 向山松秀

第四部 : 意見交換会 (18:00~20:00)

【第一部：作品発表会】

今年の作品発表会の講演内容は、小断面木造部材を重ね合わせたうえで細径鋼材を組み合わせたユニークな構造の店舗、キャンチレバー構造により大きく張り出した鉄骨造オフィス、都市部での施工上の難条件に対応した鉄骨造の病院、仮受杭を用いずに建物下に新たに免震層を築いた免震レトロフィット建物と、規模、構造、工法が様々な作品について発表がありました。

どの作品も構造設計者の工夫や苦労した内容について詳細な説明があり、大変興味深いものばかりで、活発な質疑応答が繰り広げられました。



【第二部：ベテラン設計者から若手設計者へのメッセージ】

第二部はベテラン設計者から若手設計者へのメッセージと題して3名の大先輩から多くの示唆のあるメッセージ、アドバイスを頂戴致しました。

「構造設計者の提案により建設費が大きく変わるのだから、プロジェクトに対する構造設計者の貢献は大きい」、「最初は分からないことばかりなのは当たり前で、だからといって間違いを恐れてばかりいてはいけない」等、様々なメッセージを頂戴しました。またご自身が若いころの海外経験のお話もあり、苦労も大きいとその分、やりがい、楽しみも大きかった等、貴重な経験談のお話がありました。

質疑応答では学生さんを始めとする若手技術者から活発な質問が挙がり、ベテランの方々とは若手との交流が図られ、若手設計者には大いに刺激になったようです。



【第三部：第 27 回 JSCA 賞 受賞記念講演】

第三部は第 27 回 JSCA 賞作品賞を受賞された村上博昭氏に受賞記念講演を頂きました。

受賞作品である立教大学ロイドホール「18 号館」の他、この作品の設計に至るまでの礎となった他の 2 つのプロジェクトの紹介がありました。プレキャスト PC のディテールに対する工夫や、意匠、設備設計者との協働の仕方、JSCA 賞現地審査の際の質疑応答内容等、大変興味深い講演内容でした。

質疑応答でも活発な質問が挙がり、村上氏の設計に対する姿勢等を説明頂き、多くの示唆を頂戴しました。設計中は苦しいことが多いが、建物が竣工した時の充実感や建築主からの感謝の念を頂いた時の喜びは他に代えがたいというメッセージは、特に若手設計者に希望を与えて下さったのではないかと思います。



以上